

～TANKYU～

谷地南部小学校
校内研究だより
2023. 5. 17
No.9 文責 伊藤

無知の知



かの有名な哲学者の言葉です。私も採用試験に向けた勉強で幾度となく名前を目にして、人となりや言葉の意味・考え方等について覚えようと頑張った記憶があります。白田先生や菅野先生は、より新鮮な記憶で残っているでしょうし先輩方は当たり前にご存じの事と思いますが、一旦言葉の意味を押さえておきたいと思います。

ソクラテス哲学を特徴づける有名な言葉。哲学者（愛知者）という意味でのギリシア語 philosophos は、ピタゴラス、ソクラテス的意味では、神だけが知者 sophos であるとの立場から、知者でないがゆえに知 sophia を愛求する有限的存在としての人間の本質規定であった。したがって philosophia は、いわゆる賢者や知恵の本性が神と比すれば無にも等しいものであることを明らかに自覚することに始まる。本来の知のイデーのもとにおける自己の無知の自覚が無知の知にほかならず、ソクラテスの優越は、だれよりも深くこのことにおいてすぐれていたことによる（『ソクラテスの弁明』）。しかも無知の知は、消極的側面にとどまらず、かえって迷妄をはらし真実の知への扉を開くのであり、かかる自覚を自己の本質的契機としてこそ、「能うかぎり神に似ること」が philosophos の目標として措定されることになる。それゆえにまた教育者としてのソクラテスは、人々にこの自覚を与え本来の知のイデーへ視座を転換するように努めるのであり、そのことはプラトンの対話篇に印象的に示されている。

出典 ブリタニカ国際大百科事典 小項目事典ブリタニカ国際大百科事典 小項目事典について

簡単にまとめると、「自分が何を知らないのか、何を知りたいと思っているのかを自覚することが大切であり、自覚することから学びが始まる」といった感じでしょうか。その視点で考えると、少なくとも以前の私は全くできていませんでした。

私は教員採用試験に合格するまで、数年の講師期間がありました。講師時代にも谷地南部小学校に勤務して多くの先生に育てていただいたのですが、当時の教務主任の先生に言われた言葉が思い出されます。

「伊藤先生は、何も聞かないよね。もっといろいろ聞けばいいのに。」

私としては、いろいろ聞いているつもりでした。でも本質から外れたことしか聞けていなかったのです。それで聞いているつもりになるくらい頭や心の容量がいっぱいだったのだと思います。何を聞いたらいいのか、何が分からないのかすら分からない状態でした。

これから個人研究を進めていくにあたり、まずは「知らないことは何か」「どんなことを知りたいのか」をはっきりさせることが必要だと思います。課題が分かれば、一步踏み出せます。踏み出せば、周りの人も手を差し伸べてくれます。子ども達同様、私たち教職員も「主体的」に研修を進めていければいいですね。何でも対応できる研究部をご活用ください！